国道沿いから見たスコルショップ

右側がセレクトショップで２階が事務所

木材・異素材を組み合わせたデザイン

中心市街地の活性化を図る店舗をオープン

笹川工建㈱/SCOL HOUSE（佐賀県多久市）

佐賀県全域で不動産・注文住宅・リノベーション・リフォームを手掛けている笹川工建㈱（佐賀県多久市）は、今年度より、SCOL HOUSE（スコルハウス）という注文住宅のブランドを立ち上げ、5月3日には旗艦店であるSCOL SHOP（スコルショップ）をオープンした。

JR多久駅前にオープンした店舗は、同社が年間20棟ほど手掛けている注文住宅「スコルハウス」のスタジオ（相談センター＆事務所）として利用されるほか、1階には、SCOL CAFEという名称のカフェ（コーヒー&ベーカリー）と、SCOL SHOPという名称のセレクトショップ（生活雑貨・小物）の二つの店舗が設けられている（スコルカフェは5月末時点で準備中）。

オープンの背景には、市街地の街なみ活性化のための戦略がある。設計・事業計画を担当している笹川俊一氏に話を聞いた。

オープンの背景

佐賀県多久市は、古くは炭鉱として栄えた内陸部の町、人口は1・9万人。近隣には全国的に知られる吉野ヶ里遺跡があり、「掘ると何か出てくる」と言われるほど埋蔵物が多い事情もあって大規模な開発は難しく、地元に詳しい事業者が経済の担い手である。年々進む高齢化の中、衰退が深刻化する中心市街地の活性化を担うべく、笹川工建では、多久駅前への移転を実施した。笹川氏は、地元の町内会でまちづくりの部会長を務めており、「誰もが住みやすく」、「にぎわいのある」、「活気のある」まちにするための意見を出し合いながら、市の土地区画整備事業として進められてきた多久市北側の整備事業において店舗として参加。4年前より駅前の商業施設に小物・雑貨店のテナントとして出展。多久駅周辺イベントに参加して知名度を上

笹川 俊一 氏（取締役　二級建築士　チームホームアドバイザー）

生活雑貨や小物を展示販売するSCOL SHOP（スコルショップ）

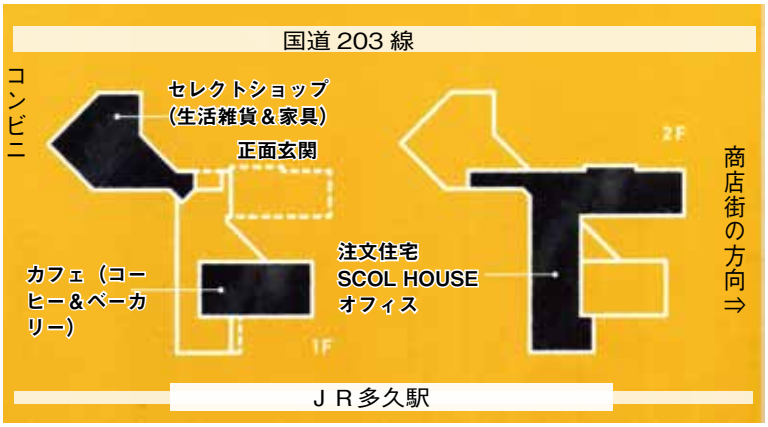
げながら、このたびの店舗の建設とオープンに至った。

建物のコンセプト

SCOL HOUSE（スコルハウス）とは、シフト コンセプト オブ ライフ（Shift concept of life 暮らしの概念のシフト）にちなんだ名称で、人生に欠かせない衣食住を提供することを目的として、街づくり、不動産といった展開を視野においた「エアストリーム」として位置づけている。建物は「衣」の雑貨ゾーン、「食」のカフェ（準備中）、「住」の注文住宅スタジオの3つに分かれている。

建物の特色として、3つの建物が連結したような形状をしていることがある。これは、正面玄関とスコルハウスとセレクトショップを国道203線沿いに向け、セレクトショップとカフェを駅前に向け、カフェを商店街の方向に向けるという狙いからこうした形となった。

スコルハウスの看板は、国道から見えやすくした。これは車で1時間以内で県内全域をカバーできる同社の地の利を活かした販売エリアの特性上、車で目につきやすい位置とした。セレクトショップも気軽に車をとめやすいように国道沿いとした。今年の春から向かい側にコンビニエンスストアがオープンしたので、立ち寄り来場者の増加が見込まれる。またセレクトショップは、以前はJR多久駅のテナントショップだったので、駅から見える位置にある。カフェは、憩いの場や、焼きたてパンを購入できる店として、駅前と100m先の商店街から見える位置でオープンする。



建物の形状（1階、2階）

３月に隣地で開催された「春のパンまつり」

これらの店舗は、多久駅周辺イベントにおいて重要な役割を担っている。以前、テナントを出していた駅前の施設は、多久市まちづくり交流センターとなって展示イベントが開催されている。３月には「春のパンまつり」が開催され、多久駅周辺空き地活用化プロジェクトとして、パン屋、焼き菓子、バーガー屋など12店舗が立ち並んで音楽ライブイベントを開催。２５００人の来場者が集まった。商店街は高齢化等により年々閉店する店が増えているものの、毎年お盆の８月15日、16日に開催される多久山笠（やまがさ）では、商店街からの人形山と提灯山の巡業で駅前は歩行者天国として賑わう。スコルショップでは祭日はカフェを開放して地元の賑わいの拠点として活用されるほか、３階のロフトと屋上で、山笠の行列や花火の見物を楽しむこともできる。

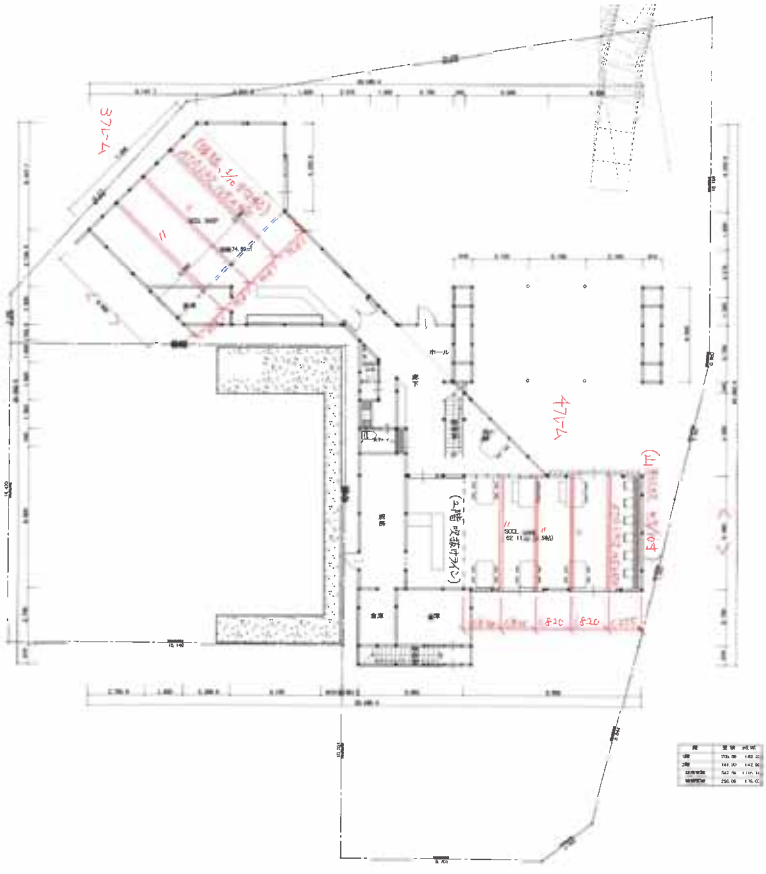
建物の主な仕様

スコルハウスでは、お客さんのニーズや趣味・趣向に柔軟に対応できる注文住宅に力を入れている。単体でのファン作りに力を入れており、建物性能には特にこだわっている。高気密・高断熱においては、東北地方の基準であるＵＡ値（外皮平均熱貫流率）０・56をクリアしている。またハウスメーカーとの違いを明確に踏まえながら、ナチュラルテイストを基調とした小回りの利く注文住宅を得意としており、建物全体にも特色があらわれている。

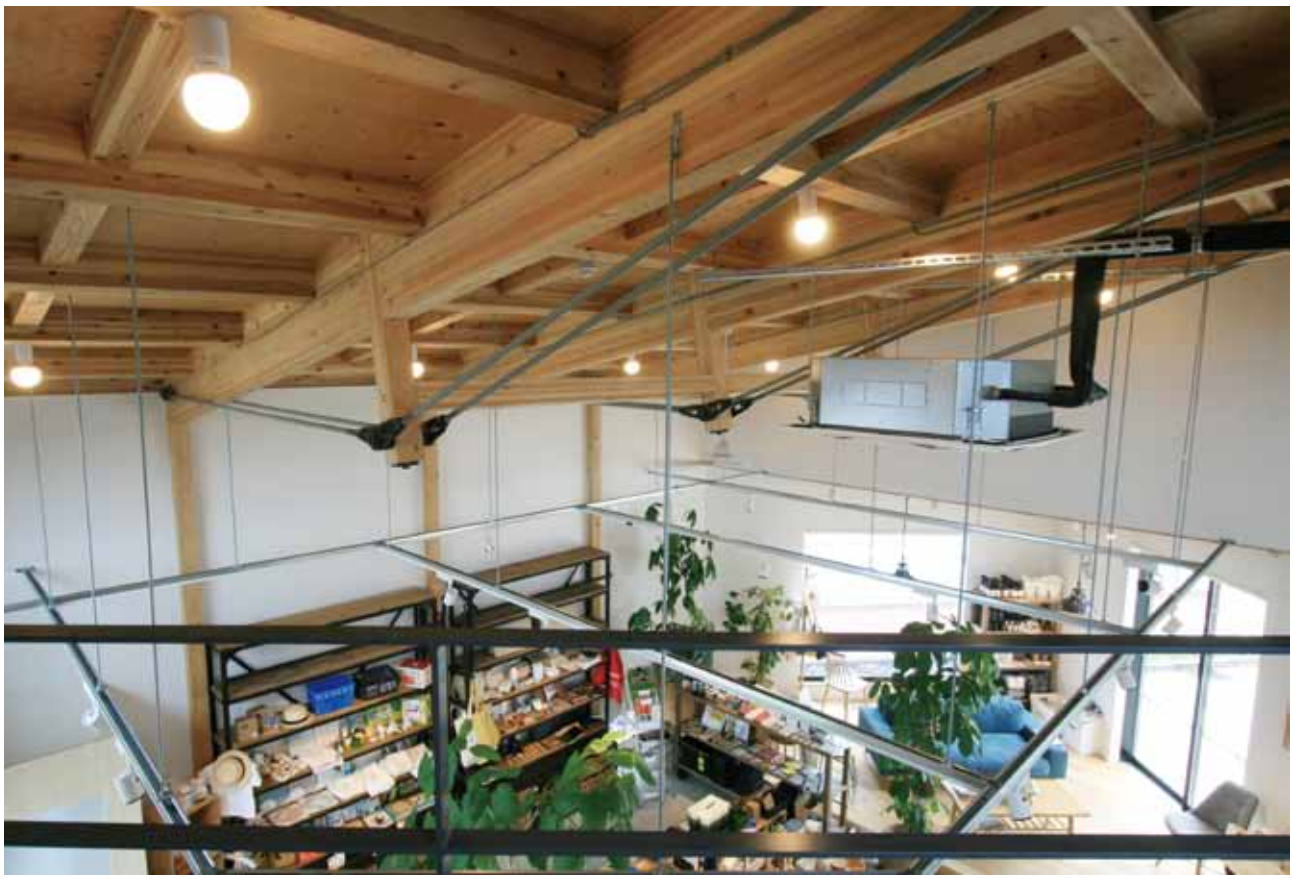
建物全体は、在来軸組工法で設計されており、木材としては佐賀県産材をベースにパイン、ナラ、チークなどの銘木も組み合わせながら多彩な質感にあふれたデザインに仕上げ、外回りには耐候性のあるサーモウッドを使って統一感を出している。木材の供給とプレカットは黒田木材商事が行った。

佐賀県は全国的には熊本県と並んで大地震の発生率が低い県とされてきたが、熊本地震発生以降は、大地震への備えに対する需要が高まっている。同社では制震装置を標準採用しているほか、今回オープンしたスコルショップとスコルカフェには、ＡＴＡハイブリッド構法を採用した。スコルショップにはＡＴＡハイブリッドトラスの片流れタイプで最も小さいサイズの７ｍのスパンで３フレームが入っている。スコルカフェには、合掌タイプで６ｍのスパンで３フレーム入っている。

ＡＴＡハイブリッド構法を採用した狙いとしては大空間における耐震性の強化のほかに異素材との組合せというデザイン上のコーディネートがある。スコルハウス

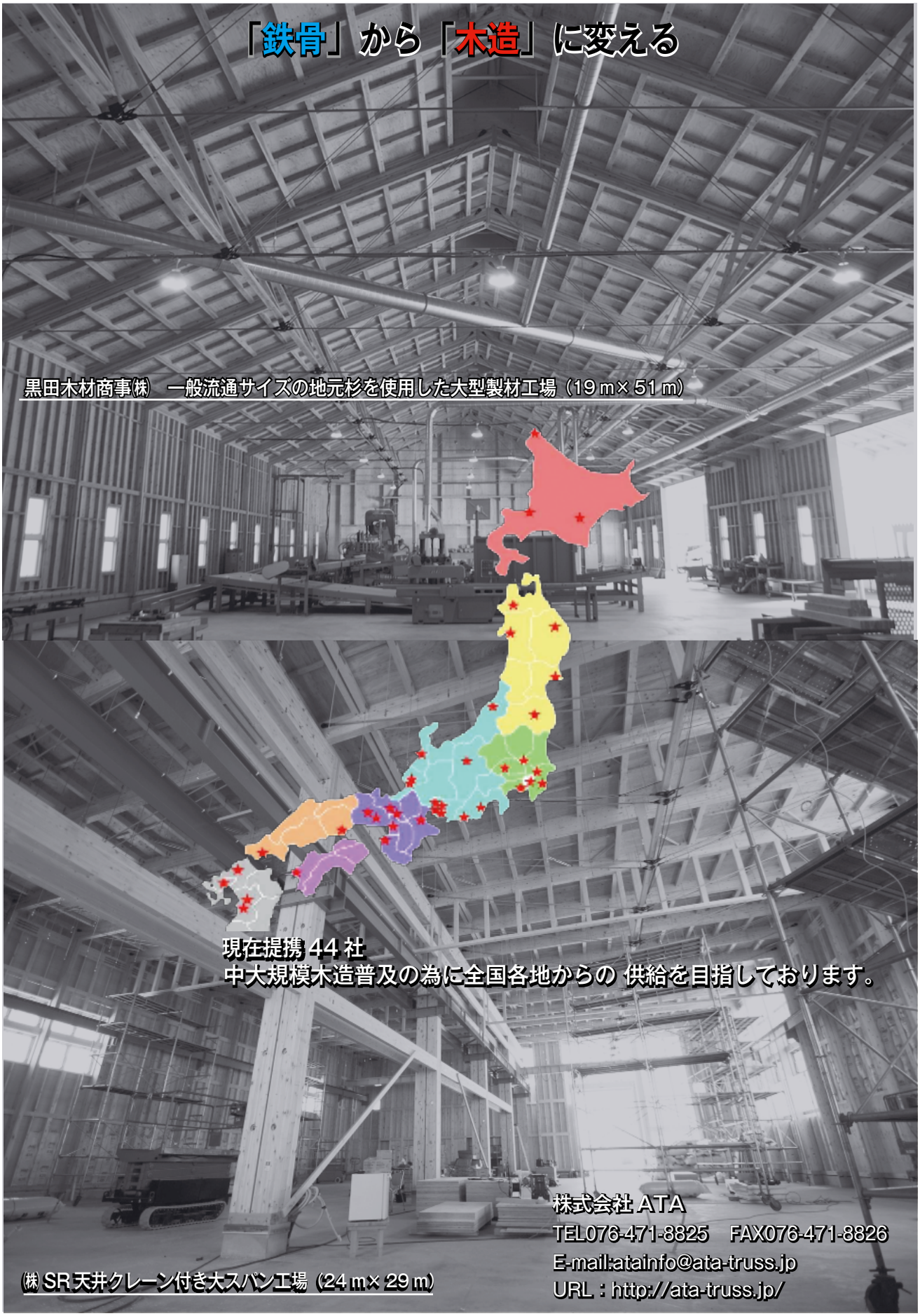


１階平面図とＡＴＡハイブリッドトラスの位置（赤印）



（上）SCOL SHOP の天井に設置された ATA ハイブリッドトラス（張弦梁トラス / 片流れ屋根用）

（左）SCOL CAFE に設置された ATA ハイブリッドトラス（山型トラス / 合掌屋根用）

では無機系でも素材感のある表現が多い。例えばカタログではコンクリート製のキッチンの提案をしており、店舗全体では漆喰クロスを採用している。建物の外装では菱張りという、蔵のなまこ壁をモチーフにした伝統系のデザインを採用。熊本では見るが佐賀では非常に珍しい張り方で、板金屋もはじめてという張り方にチャレンジした。木材にアイアンなどの異素材を組み合わせるスタイルは、近年流行のスタイルで、ドア、建具、キッチンなどに幅広く利用されている。スコルショップとスコルカフェでは、家具の足組みと躯体構造にアイアンを組み合わせたデザインで統一することにより、ATAハイブリッドトラスのスチールと木材の組合せを統一感のあるデザインで表現している。また店舗や施設等での展開も視野に置いている。スコルハウスでは、福岡のスタジオで注文住宅の家づくりやエリアマーケティングの手法を学んで修行した経験をもつ笹川氏を中心に、注文住宅づくりやエリアマーケティングに力を入れながら、地元の建設会社として施設や学校などの公共の工事も行ってきた笹川工建の総合力も活かした展開を図っていく。

ＡＴＡハイブリッド構法